

02

アウトライン
11~12月のへら鮎釣り

03

ウドンセットの浅ダナ釣り

06

ウドンセットのチョーテン釣り

09

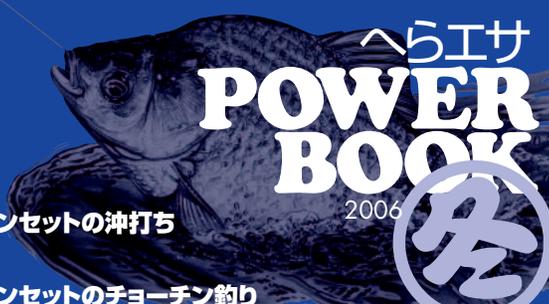
段差の底釣り

12

グルテンセットの沖打ち

14

グルテンセットのチョーテン釣り



アウトライン 11~12月のへら鮎釣り

秋から冬にかけて、気温が段階的に下がるこの時期は、へら鮎の活性も低下し、エサを吸い込む力も弱くなる。夏のように、エサ打ちと同時にアタリが出るというものではない。寄せるまでの時間がかかるだけでなく、スタート時のエサ使いが釣果を左右する。釣り方はセット釣りがメイン

となり、野釣りでは集魚効果が高いバラケが不可欠。くわせには、ハリ持ちがよいグルテンを使ってアタリを維持するのがコツだ。

これとは別に、初冬は新べら放流シーズンでもある。着き場に当たると大釣りのチャンス。両グルテンで繊細なアタリを狙うと枚数もグンと伸びる。それには新べらの放流状況とウキの動きを見ながらエサを使い分けることだ。

管理釣り場の浅ダナ釣りでは、ここ何年かで定着した、重めのバラケに「粒戦」や「粒戦・細粒」をブレンドするエサ使いで、今年も爆釣が期待できそうだ。ウワズリやすいへら鮎のタナを「粒戦」や「粒戦・細粒」によりコントロールしながら釣り込むという

釣法で、バラケを早く抜く、抜きバラケから、しっかりとツブをなじませてからのアタリを狙うなど、その日の食いに適した持たせ方が急所。くわせは、ウドンを中心に「感嘆」や「力玉」など、重さが異なるくわせも用意すれば、水温の低下で活性が鈍ったへら鮎に対応でき、繊細な釣りが楽しめるはずだ。

